

別表第1 研究科の授業科目、単位数及び履修方法

I. 経済・ビジネス研究科

1 授業科目及び単位数

経済学専攻 博士前期課程

区分	授業科目	単位
共通研究科目	英語プレゼンテーション特論	2
	基盤能力特論	2
	プロジェクト実践演習A	2
	プロジェクト実践演習B	2
	プロジェクト実践演習C	4
	生徒指導・進路指導特論	2
	学校心理学特論	2

区分	授業科目	単位
基礎科目	*経済理論	2
	*経済・経営思想	2
	*経済・経営史	2
	*経済政策	2
	*国際経済	2
	*経済・経営統計	2
	*ファイナンス	2
	観光学	2
	地域観光	2
	会計学	2
	マーケティング	2
	経営学	2
	経営戦略	2
	情報処理	2
	租税法	2
	インターンシップ	2
	経済英語Ⅰ	2
	経済英語Ⅱ	2
	経営英語Ⅰ	2
	経営英語Ⅱ	2
	英語プレゼンテーションⅠ	2
	英語プレゼンテーションⅡ	2
	科留学目生	日本語経済
日本語経営		2
専門科目	経済理論研究	2
	政治経済学研究	2
	経済・社会思想研究	2
	日本経済史研究	2
	西洋経済史研究	2
	統計・計量研究	2
	農業経済学研究	2
	金融論研究	2
	財政学研究	2
	経済・社会政策研究	2
	国際・経済発展論研究	2
	環境政策研究	2
	租税法研究	2

区分	授業科目	単位
専門科目	経済理論セミナー	2
	政治経済学セミナー	2
	経済・社会思想セミナー	2
	日本経済史セミナー	2
	西洋経済史セミナー	2
	統計・計量セミナー	2
	農業経済学セミナー	2
	金融論セミナー	2
	財政学セミナー	2
	経済・社会政策セミナー	2
	国際・経済発展論セミナー	2
	環境政策セミナー	2
	租税法セミナー	2
科課題研究	経済課題研究 1	2
	経済課題研究 2	2
演習科目	経済学演習 1	2
	経済学演習 2	2

現代ビジネス専攻 博士前期課程

区分	授業科目	単位	
共通研究科目	英語プレゼンテーション特論	2	
	基礎能力特論	2	
	プロジェクト実践演習A	2	
	プロジェクト実践演習B	2	
	プロジェクト実践演習C	4	
	生徒指導・進路指導特論	2	
	学校心理学特論	2	
区分	授業科目	単位	
基礎科目	経済理論	2	
	経済・経営思想	2	
	経済・経営史	2	
	経済政策	2	
	国際経済	2	
	*経済・経営統計	2	
	*ファイナンス	2	
	*観光学	2	
	*地域観光	2	
	*会計学	2	
	*マーケティング	2	
	*経営学	2	
	*経営戦略	2	
	*情報処理	2	
	租税法	2	
	インターンシップ	2	
	経済英語Ⅰ	2	
	経済英語Ⅱ	2	
	経営英語Ⅰ	2	
	経営英語Ⅱ	2	
英語プレゼンテーションⅠ	2		
英語プレゼンテーションⅡ	2		
科 留 学 生 目	日本語経済	2	
	日本語経営	2	
専門科目	研究科目	マーケティング研究	2
		広告戦略研究	2
		流通情報論研究	2
		リスクマネジメント研究	2
		観光学研究	2
		アジア観光研究	2
		日本観光研究	2
		財務会計研究	2
		管理会計研究	2
		原価管理研究	2
	会計情報システム研究	2	
	会計学研究	2	
	セミナー科目	マーケティングセミナー	2
		広告戦略セミナー	2
		流通情報論セミナー	2
		リスクマネジメントセミナー	2
		観光学セミナー	2
		アジア観光セミナー	2
		日本観光セミナー	2
		財務会計セミナー	2
管理会計セミナー		2	
原価管理セミナー		2	
会計情報システムセミナー	2		
会計学セミナー	2		
課題研究科目	現代ビジネス課題研究1	2	
	現代ビジネス課題研究2	2	
演習科目	現代ビジネス演習1	2	
	現代ビジネス演習2	2	

区分	授業科目	単位		
専門科目	研究科目	経営管理研究	2	
		企業財務研究	2	
		人的資源管理研究	2	
		生産管理研究	2	
		国際経営研究	2	
		経営史研究	2	
		経営情報研究	2	
		国際・地域経営研究	2	
		セミナー科目	経営管理セミナー	2
			企業財務セミナー	2
人的資源管理セミナー	2			
生産管理セミナー	2			
国際経営セミナー	2			
経営史セミナー	2			
経営情報セミナー	2			
国際・地域経営セミナー	2			
課題研究科目	マネジメント課題研究1		2	
	マネジメント課題研究2		2	
演習科目	マネジメント演習1	2		
	マネジメント演習2	2		

経済・ビジネス専攻 博士後期課程

区分	授業科目	単位	
基幹科目	*経済・ビジネス研究論	2	
	基幹経済学	2	
	基幹商学	2	
	基幹経営学	2	
経済学領域	特別研究科目		
	理論経済学特別研究	4	
	経済理論史特別研究	4	
	経済システム特別研究	4	
	社会思想史特別研究	4	
	経済変動論特別研究	4	
	日本経済史特別研究	4	
	経済思想史特別研究	4	
	計量経済学特別研究	4	
	農業経済論特別研究	4	
	中小企業論特別研究	4	
	発展途上国論特別研究	4	
	アジア経済論特別研究	4	
	金融論特別研究	4	
	租税法特別研究	4	
	論文演習科目	理論経済学論文演習 1	4
		理論経済学論文演習 2	4
		経済理論史論文演習 1	4
		経済理論史論文演習 2	4
		経済システム論文演習 1	4
		経済システム論文演習 2	4
		社会思想史論文演習 1	4
		社会思想史論文演習 2	4
		計量経済学論文演習 1	4
		計量経済学論文演習 2	4
		農業経済論論文演習 1	4
		農業経済論論文演習 2	4
		中小企業論論文演習 1	4
		中小企業論論文演習 2	4
		発展途上国論論文演習 1	4
		発展途上国論論文演習 2	4
		アジア経済論論文演習 1	4
アジア経済論論文演習 2		4	
租税法論文演習 1		4	
租税法論文演習 2		4	

区分	授業科目	単位	
現代ビジネス領域	特別研究科目	会計情報システム特別研究	4
		マーケティング特別研究	4
		マーケティング戦略特別研究	4
		流通情報論特別研究	4
		財務会計特別研究	4
		会計学特別研究	4
	論文演習科目	会計情報システム論文演習 1	4
		会計情報システム論文演習 2	4
		マーケティング論文演習 1	4
		マーケティング論文演習 2	4
		マーケティング戦略論文演習 1	4
		マーケティング戦略論文演習 2	4
		流通情報論論文演習 1	4
		流通情報論論文演習 2	4
	特別研究科目	経営理論特別研究	4
		生産管理論特別研究	4
		国際経営システム比較論特別研究	4
		経営情報システム論特別研究	4
		計量経営学特別研究	4
		人的資源管理論特別研究	4
論文演習科目	人的資源管理論論文演習 1	4	
	人的資源管理論論文演習 2	4	
	経営理論論文演習 1	4	
	経営理論論文演習 2	4	
	国際経営システム比較論論文演習 1	4	
	国際経営システム比較論論文演習 2	4	
	経営情報システム論論文演習 1	4	
	経営情報システム論論文演習 2	4	
計量経営学論文演習 1	4		
計量経営学論文演習 2	4		

2 履修方法等

(1) 博士前期課程

- ① 学生は、「専修コース」または「研究者養成コース」のいずれかに所属するものとし、入学時に届け出るものとする。
- ② 「専修コース」は課題研究の担当教員、「研究者養成コース」は演習の担当教員を主研究指導教員とし、授業科目の選択および課題研究報告書または学位論文の作成その他について指導を受けるものとする。
- ③ 「研究者養成コース」においては、原則として同一専攻内の演習担当教員1名を副研究指導教員とする。
- ④ 学生は、2年以上在学し、30単位以上修得するものとする。ただし、特に優れた業績をあげた者の在学期間は、1年以上在学すれば足りるものとする。
- ⑤ 修了に必要な30単位以上の修得は、以下のとおりとする。

a. 経済学専攻

コース	基礎科目		研究科目	セミナー科目	課題研究 科目	演習科目	合計
	基礎科目	留学生科目					
専修コース	10～16単位以上	(2単位)	6単位以上	4単位以上	4単位	/	30単位以上
研究者養成コース	10～16単位以上	(2単位)	8単位以上	6単位以上	/	6単位	30単位以上

- ※1 基礎科目は、指定する科目（*印）を6単位以上修得しなければならない。
- ※2 外国人留学生は、留学生科目2単位以上を修得するものとする。なお、留学生科目2単位を基礎科目に読み替えることができる。
- ※3 専修コースの学生は、研究指導教員の研究科目2単位、セミナー科目2単位、及び課題研究4単位を修得するものとする。
- ※4 研究者養成コースの学生は、主研究指導教員の研究科目2単位、セミナー科目2単位、及び演習4単位、さらに副研究指導教員の研究科目2単位、セミナー科目2単位及び演習の2単位を修得するものとする。

b. 現代ビジネス専攻

コース	基礎科目		研究科目	セミナー科目	課題研究 科目	演習科目	合計
	基礎科目	留学生科目					
専修コース	10～16単位以上	(2単位)	6単位以上	4単位以上	4単位	/	30単位以上
研究者養成コース	10～16単位以上	(2単位)	8単位以上	6単位以上	/	6単位	30単位以上

- ※1 基礎科目は、指定する科目（*印）を6単位以上修得しなければならない。
- ※2 外国人留学生は、留学生科目2単位以上を修得するものとする。なお、留学生科目2単位を基礎科目に読み替えることができる。
- ※3 専修コースの学生は、研究指導教員の研究科目2単位、セミナー科目2単位、及び課題研究4単位を修得するものとする。
- ※4 研究者養成コースの学生は、主研究指導教員の研究科目2単位、セミナー科目2単位、及び演習4単位、さらに副研究指導教員の研究科目2単位、セミナー科目2単位及び演習の2単位を修得するものとする。

- ⑥ 全研究科共通科目を10単位を限度として修了に必要な基礎科目又は研究科目の修得単位に加えることができる。
- ⑦ 研究科が教育上有益と認めるときは、他の専攻、他研究科及び基礎となる学部の授業科目の履修を認めることができる。なお、修了に必要な基礎科目又は研究科目の単位として認定することができる単位は、前⑥の全研究科共通科目と合わせて10単位以内とする。
- ⑧ 学生は、所定の期日までに、修士論文または課題研究報告書を大学院事務室に提出するものとする。
- ⑨ その他授業科目の履修及び研究指導に関し必要な事項は、別に定める。

(2) 博士後期課程

- ① 学生は、「社会人特別コース」または「研究者養成コース」のいずれかに所属するものとし、入学時に届け出るものとする。

- ② 学生は、3年以上在学し、論文演習担当の研究指導教員に、学位論文の作成、その他研究全般について指導を受けるものとする。ただし、特に優れた業績をあげた者の在学期間は、1年以上在学すれば足りるものとする。
- ③ 学生は、必修科目2単位及び研究指導教員の特別研究、論文演習1・2の12単位、合計14単位を修得するものとする。ただし、取得を目指す博士の学位と異なる修士の学位を有する者は、取得を目指す学位と同じ分野の基幹科目2単位を修得し、合計16単位を修得するものとする。
- ④ 特別研究、論文演習1・2の単位認定は、研究報告書の評価によって行う。なお、論文演習2の研究報告書は、原則として20,000字程度とし、履修年度の所定の期日までに提出するものとする。
- ⑤ 学生は、研究指導教員と相談の上、研究遂行に必要な知識の修得のため、4単位の特別研究を担当する教員の許可を得て履修することができる。なお、修得した単位は修了単位として認定されない。
- ⑥ 博士の学位論文の審査、その他必要な事項は別に定める。
- ⑦ 博士後期課程において所定の修業年限在学して、所定の単位を修得後、学位論文を提出するために引き続き在学する学生は、研究指導教員に、各学期14回の学位論文指導を受けなければならない。

II. 工学研究科

1 授業科目及び単位数

産業技術デザイン専攻 博士前期課程

区分	授業科目	単位
全 研 究 科 目	英語プレゼンテーション特論	2
	基盤能力特論	2
	プロジェクト実践演習 A	2
	プロジェクト実践演習 B	2
	プロジェクト実践演習 C	4
	生徒指導・進路指導特論	2
	学校心理学特論	2

区分	授業科目	単位	
専 門 科 目	機 械 シ ス テ ム 分 野	機械システム特別研究 I	2
		機械システム特別研究 II	6
	バ イ オ ロ ボ テ ィ ク ス 分 野	バイオロボティクス特別研究 I	2
		バイオロボティクス特別研究 II	6
	電 気 情 報 分 野	電気情報技術特別研究 I	2
		電気情報技術特別研究 II	6
	物 質 生 命 分 野	物質生命化学特別研究 I	2
		物質生命化学特別研究 II	6
	土 木 デ ザ イ ン 分 野	土木デザイン特別研究 I	2
		土木デザイン特別研究 II	6
	建 築 デ ザ イ ン 分 野	建築デザイン特別研究 I	2
		建築デザイン特別研究 II	6
選 択 科 目	共 通	産業技術デザイン実務実習	2
	機 械 シ ス テ ム 分 野	機械システム特別演習 I	2
		機械システム特別演習 II	2
		材料力学特論 I	2
		材料力学特論 II	2
		応力解析学特論	2
		機械力学特論	2
		振動工学特論	2
		流体工学特論	2
		熱工学特論	2
		機械工作特論	2
		精密工作特論	2
		機械設計特論	2
		エネルギー変換工学特論	2
		数値解析特論	2
最適化理論特論	4		
数値計算法特論	4		
微分幾何学特論	4		

区分	授業科目	単位	
専 門 科 目	バ イ オ ロ ボ テ ィ ク ス 分 野	バイオロボティクス特別演習 I	2
		バイオロボティクス特別演習 II	2
		バイオメカニクス特論 I	2
		バイオメカニクス特論 II	2
		ロボティクス特論 I	2
		ロボティクス特論 II	2
		制御工学特論 I	2
		制御工学特論 II	2
		メカトロニクス特論	2
		組織工学特論	2
	バイオミメティクス特論	2	
	応用数学特論	4	
	電 気 情 報 技 術 分 野	電気情報技術特別演習 I	2
		電気情報技術特別演習 II	2
		電気エネルギー工学特論	2
電気エネルギー環境基礎特論		2	
電磁気学特論		2	
電 気 情 報 技 術 分 野	回路とシステム特論	2	
	電気計測特論	2	
	電子物性特論	2	
	超伝導工学特論	2	
	制御システム特論	2	
電 気 情 報 技 術 分 野	波動情報工学特論	2	
	デジタルシステム特論	2	
	光通信工学特論	2	
	情報システム特論 I	2	
	情報システム特論 II	2	
電 気 情 報 技 術 分 野	ソフトウェア基礎特論	2	
	パワーエレクトロニクス特論	2	

区分		授業科目	単位	
専 選 門 科 目	質 生 命 化 学 分 野	物質生命化学特別演習Ⅰ	2	
		物質生命化学特別演習Ⅱ	2	
		無機化学特論	2	
		有機化学特論	2	
		有機合成化学特論	2	
		物理化学特論	2	
		環境化学特論	2	
		分析化学特論	2	
		物質環境化学特論Ⅰ	2	
		物質環境化学特論Ⅱ	2	
		生物有機化学特論	2	
		生物化学工学特論	2	
		植物分子生物学特論	2	
		微生物工学特論	2	
		生物分離工学特論	2	
		応用生物学特論	2	
		生物工学特論	2	
		食品栄養化学特論	2	
		食品製造特論Ⅰ	2	
		食品製造特論Ⅱ	2	
		応用生命化学特論Ⅰ	2	
		応用生命化学特論Ⅱ	2	
		土 木 デ ザ イ ン 分 野	土木デザイン特別演習Ⅰ	2
			土木デザイン特別演習Ⅱ	2
			風景デザイン特論	2
			河川デザイン特論	2
			生態学特論	2
応用生態学特論	2			
海岸防災工学特論	2			
沿岸環境保全特論	2			
応用水理学特論	2			
地下水工学特論	2			
建設工学特論	2			
維持管理工学特論	2			
構造工学特論	2			
耐震工学特論	2			
コンクリート構造工学特論	2			
建設材料特論	2			
地盤工学特論	2			
環境地盤工学特論	2			

区分		授業科目	単位	
専 門 科 目	建 築 デ ザ イ ン 分 野	建築デザイン特別演習Ⅰ	2	
		建築デザイン特別演習Ⅱ	2	
		施設計画特論	2	
		住環境計画特論	2	
		空間設計特論	2	
		建築設計特論	2	
		建築歴史特論Ⅰ	2	
		建築歴史特論Ⅱ	2	
		保存修景計画特論	2	
		都市計画特論	2	
		施設計画演習	2	
		住環境計画演習	2	
		空間設計演習	2	
		建築設計演習	2	
		都市計画演習	2	
		建築環境工学特論	2	
		建築設備特論	2	
		建築設備設計演習	2	
		建築材料特論	2	
		構造力学特論Ⅰ	2	
構造力学特論Ⅱ	2			
建築振動特論	2			
合成構造特論	2			
鉄筋コンクリート構造特論	2			
建築構造設計演習	2			
地震工学特論	2			
地震工学演習	2			
自由科目	イン分野	建築デザイン	建築士実務実習Ⅰ	4
			建築士実務実習Ⅱ	4
			建築士実務実習Ⅲ	4

産業技術デザイン専攻 博士後期課程

区分		授業科目	単位
産 業 技 術 デ ザ イ ン 分 野	特 別 演 習	機械システム特別演習Ⅰ	2
		機械システム特別演習Ⅱ	2
	バ イ オ ロ ボ テ ィ ク ス	バイオロボティクス特別演習Ⅰ	2
		バイオロボティクス特別演習Ⅱ	2
	情 報 技 術	電気情報技術特別演習Ⅰ	2
		電気情報技術特別演習Ⅱ	2

区分		授業科目	単位	
産 業 技 術 デ ザ イ ン 分 野	特 別 演 習	生物化学	物質生命化学特別演習Ⅰ	2
			物質生命化学特別演習Ⅱ	2
	デ ザ イ ン	土木	土木デザイン特別演習Ⅰ	2
		木	土木デザイン特別演習Ⅱ	2
	デ ザ イ ン	建	建築デザイン特別演習Ⅰ	2
築		建築デザイン特別演習Ⅱ	2	
研 究 別	共 通	産業技術デザイン特別研究	6	

2 履修方法等

(1) 博士前期課程

- ① 学生は、特別研究の担当教員（以下「指導教員」という。）から、授業科目の選択及び学位論文等の作成その他全般について指導を受けるものとする。
- ② 学生は、2年以上在学し、所定の授業科目について必修科目8単位、選択科目22単位以上、合計30単位以上を修得するものとする。ただし、特に優れた業績を上げたと認められた者の在学期間については、1年以上在学すれば足りるものとする。
- ③ 学生は、指導教員へ所定の期日までに、学位論文または課題研究報告書を提出するものとする。
- ④ 全研究科共通科目を10単位を限度として修了に必要な選択科目の修得単位に加えることができる。
- ⑤ 研究科が教育上有益と認めるときは、他研究科の選択科目の履修を認めることができる。なお、修了に必要な選択科目として認定することができる単位は、前④の全研究科共通科目と合わせて10単位以内とする。
- ⑥ 他研究科の授業科目を履修しようとする学生は、あらかじめその授業科目担当教員の許可を受けなければならない。

(2) 博士後期課程

- ① 学生は、特別研究担当の研究指導教員（以下「指導教員」という。）から、学位論文の作成、その他研究全般について指導を受けるものとする。
- ② 学生は、指導教員が担当する特別研究、特別演習Ⅰ・Ⅱを履修し、合計10単位を修得するものとする。ただし、指導教員が必要と認めた場合は、他の特別演習を、当該の特別演習を担当する教員の許可を得て履修することができる。
- ③ 指導教員が教育上有益と認めるときは、大学院協議会の議を経て学生が他の大学院又は研究所等において特別研究に関する必要な研究指導を受けることを認めることがある。
- ④ 学位論文には、指導教員が必要と認めた場合は作品を加えることができる。
- ⑤ 博士後期課程において所定の修業年限在学して、所定の単位を修得後、学位論文を提出するために引き続き在学する学生は、指導教員に、各学期14回の学位論文指導を受けなければならない。

Ⅲ. 芸術研究科

1 授業科目及び単位数

造形表現専攻 博士前期課程

区分	授業科目	単位
共通研究科目	英語プレゼンテーション特論	2
	基盤能力特論	2
	プロジェクト実践演習A	2
	プロジェクト実践演習B	2
	プロジェクト実践演習C	4
	生徒指導・進路指導特論	2
	学校心理学特論	2

必修科目		
区分	授業科目	単位
総合研究	領芸術表現 芸術表現総合研究Ⅰ	4
	芸術表現総合研究Ⅱ	4
	領デザイン デザイン総合研究Ⅰ	4
	デザイン総合研究Ⅱ	4
	領写真・映像 写真・映像総合研究Ⅰ	4
	写真・映像総合研究Ⅱ	4
演習 応用	芸術表現応用演習	4
	デザイン応用演習	4
	写真・映像応用演習	4

選択科目		
区分	授業科目	単位
芸術表現理論	美術史特論	2
	西洋美術史特論	2
	現代美術特論	2
	工芸特論	2
	デザイン特論	2
	デザインビジネス特論	2
	写真作品特論	2
	写真史特論	2
	映像作品特論	2
	映像特論	2
	柿右衛門特論	2
	造形心理学特論	2
演習 超域	造形表現超域演習	4
	芸術超域演習	2
特定演習	造形表現特定演習 (美術史)	2
	造形表現特定演習 (西洋近代美術史)	2
	造形表現特定演習 (油彩表現)	2
	造形表現特定演習 (ミクストメディア表現)	2
	造形表現特定演習 (抽象表現)	2
	造形表現特定演習 (絵画材料表現)	2
	造形表現特定演習 (インスタレーション表現)	2
	造形表現特定演習 (版画表現)	2
	造形表現特定演習 (日本画基礎)	2
	造形表現特定演習 (日本画表現)	2
	造形表現特定演習 (パブリックアート表現)	2
	造形表現特定演習 (環境彫刻表現)	2
	造形表現特定演習 (木彫表現基礎)	2
	造形表現特定演習 (映像アニメーションA)	2
	造形表現特定演習 (映像アニメーションB)	2

選択科目			
区分	授業科目	単位	
特定演習	デザイン領域	造形表現特定演習 (グラフィックデザインA)	2
		造形表現特定演習 (グラフィックデザインB)	2
		造形表現特定演習 (イラストレーションA)	2
		造形表現特定演習 (イラストレーションB)	2
		造形表現特定演習 (工芸デザインA)	2
		造形表現特定演習 (工芸デザインB)	2
		造形表現特定演習 (柿右衛門様式)	2
		造形表現特定演習 (プロダクトデザインA)	2
		造形表現特定演習 (プロダクトデザインB)	2
		造形表現特定演習 (空間演出デザインA)	2
		造形表現特定演習 (空間演出デザインB)	2
		造形表現特定演習 (地域ブランド企画A)	2
	造形表現特定演習 (地域ブランド企画B)	2	
	写真・映像領域	造形表現特定演習 (情報デザインA)	2
		造形表現特定演習 (情報デザインB)	2
		造形表現特定演習 (写真制作A)	2
造形表現特定演習 (写真制作B)		2	
写真・映像領域	造形表現特定演習 (メディア表現A)	2	
	造形表現特定演習 (メディア表現B)	2	
	造形表現特定演習 (映像制作A)	2	
	造形表現特定演習 (映像制作B)	2	
	造形表現特定演習 (写真表現)	2	
	造形表現特定演習 (画像表現)	2	
	造形表現特定演習 (写真クリエイティブ)	2	
	造形表現特定演習 (映像クリエイティブ)	2	
造形表現特定演習 (映像表現)	2		

選択科目			
区分	授業科目	単位	
特定演習	領芸術表現	造形表現特殊演習 (フレスコ)	2
		造形表現特殊演習 (モザイク)	2
		造形表現特殊演習 (テンペラ)	2
		造形表現特殊演習 (版画表現)	2
	デザイン領域	造形表現特殊演習 (グラフィック)	2
		造形表現特殊演習 (イラストレーション)	2
		造形表現特殊演習 (工芸デザイン)	2
		造形表現特殊演習 (プロダクトデザイン)	2
		造形表現特殊演習 (空間演出デザイン)	2
		造形表現特殊演習 (地域ブランド企画)	2
	写真・映像領域	造形表現特殊演習 (情報デザイン)	2
		造形表現特殊演習 (写真スタディ)	2
		造形表現特殊演習 (写真の現場)	2
		造形表現特殊演習 (写真の精神)	2
		造形表現特殊演習 (写真表現A)	2
		造形表現特殊演習 (写真表現B)	2
写真・映像領域	造形表現特殊演習 (映像表現A)	2	
	造形表現特殊演習 (映像表現B)	2	

造形表現専攻 博士後期課程

区分	授業科目	単位
共通	東洋美術史特論研究	2
	西洋美術史特論研究	2
	デザイン方法特論研究	2
	デザインビジネス特論研究	2
	写真特論研究	2
	芸術文化特論研究	2
美術理論・美術史研究領域	美術理論特別研究Ⅰ	4
	美術理論特別研究Ⅱ	4
	美術理論特別研究Ⅲ	4
	東洋美術史特別研究Ⅰ	4
	東洋美術史特別研究Ⅱ	4
	東洋美術史特別研究Ⅲ	4
	西洋美術史特別研究Ⅰ	4
	西洋美術史特別研究Ⅱ	4
	西洋美術史特別研究Ⅲ	4
絵画研究領域	絵画創作特別研究Ⅰ	4
	絵画創作特別研究Ⅱ	4
	絵画創作特別研究Ⅲ	4

区分	授業科目	単位
彫刻研究領域	彫刻創作特別研究Ⅰ	4
	彫刻創作特別研究Ⅱ	4
	彫刻創作特別研究Ⅲ	4
工芸研究領域	工芸創作特別研究Ⅰ	4
	工芸創作特別研究Ⅱ	4
	工芸創作特別研究Ⅲ	4
デザイン研究領域	デザイン特別研究Ⅰ	4
	デザイン特別研究Ⅱ	4
	デザイン特別研究Ⅲ	4
写真研究領域	写真芸術論特別研究Ⅰ	4
	写真芸術論特別研究Ⅱ	4
	写真芸術論特別研究Ⅲ	4
	写真創作特別研究Ⅰ	4
	写真創作特別研究Ⅱ	4
	写真創作特別研究Ⅲ	4

区分	授業科目	単位
選択科目	論文指導Ⅰ	2
	論文指導Ⅱ	2
	論文指導Ⅲ	2

2 履修方法等

(1) 博士前期課程

- ① 学生は、総合研究の担当教員（以下「指導教員」という。）から、授業科目の選択及び学位論文等の作成その他全般について指導を受けるものとする。
- ② 学生は、2年以上在学し、必修科目として、指導教員が担当する総合研究科目8単位及び応用演習科目4単位、選択科目として、芸術表現理論科目4単位及び総合研究と同一領域の特定演習科目4単位を含め計18単位以上、合計30単位以上を修得し、かつ修士の学位論文又は特定の課題（作品等）についての研究成果の審査及び最終試験に合格するものとする。ただし、特に優れた業績を上げた認められた者の在学期間については、1年以上在学すれば足りるものとする。
- ③ 全研究科共通科目を10単位を限度として修了に必要な選択科目の修得単位に加えることができる。
- ④ 研究科が教育上有益と認めるときは、他研究科の選択科目を履修することができる。なお、修了に必要な選択科目の単位として認定することができる単位は、前③の全研究科共通科目と合わせて10単位以内とする。
- ⑤ 他研究科の授業科目を履修しようとする学生は、あらかじめその授業科目担当教員及び指導教員の承認を必要とする。
- ⑥ 学生は、修士の学位論文又は特定の課題（作品等）についての研究成果の作成に関する計画を、修了しようとする年度の前年度の後学期始めまでに指導教員に提出しなければならない。
- ⑦ 学生は、所定の期日までに、学位論文又は特定の課題（作品等）についての研究成果について、指導教員に提出するものとする。なお、その基準については別に定める。
- ⑧ 修士の学位論文及び特定の課題（作品等）についての研究成果の予備審査は、修了年次の前学期末に行うものとする。

(2) 博士後期課程

- ① 学生は、3年以上在学し、共通科目から2科目4単位及び学生の所属する研究領域の研究指導教員の特別研究12単位、合計16単位以上を修得するものとする。
- ② 学生は、3年間にわたって研究指導教員から必要な研究指導を受けなければならない。また、学位論文（研究指導教員の指導により作品を加えることができる。）の作成、その他研究全般について指導を受けるものとする。
- ③ 学生は、研究指導教員が必要と認めた場合は、他の授業科目を履修することができる。
- ④ 博士の学位論文の予備審査は、3年在学の者は9月、4年以上在学の者は2月又は9月に行うものとする。
- ⑤ 博士の学位論文は、「研究指導」を担当する研究指導教員に提出するものとする。
- ⑥ 博士後期課程において所定の修業年限在学して、所定の単位を修得後、学位論文を提出するために引き続き在学する学生は、研究指導教員に、各学期14回の学位論文指導を受けなければならない。

IV. 国際文化研究科

1 授業科目及び単位数

国際文化専攻 博士前期課程

区分	授業科目	単位
共通研究科目	英語プレゼンテーション特論	2
	基盤能力特論	2
	プロジェクト実践演習A	2
	プロジェクト実践演習B	2
	プロジェクト実践演習C	4
	生徒指導・進路指導特論	2
	学校心理学特論	2

区分	授業科目	単位
共通科目	英語文献リーディングⅠ	2
	英語文献リーディングⅡ	2
	英語プレゼンテーションⅠ	2
	英語プレゼンテーションⅡ	2

区分	授業科目	単位
国際文化研究分野	国際文化研究演習Ⅰ	4
	国際文化研究演習Ⅱ	4
	日本・アジア歴史研究（日本前近代史）	4
	日本・アジア歴史研究（アジア民族問題・歴史）	4
	日本・アジア歴史研究（東アジア交流史）	4
	日本・アジア文学研究（日本中古文学）	4
	日本・アジア文学研究（日本近世文学）	4
	日本・アジア文学研究（中国語文学）	4
	日本・アジア文学研究（朝鮮近代文学）	4
	日本・アジア言語研究（中世日本語論）	4
	日本・アジア言語研究（韓国語論）	4
	日本・アジア総合研究（日本語教育史）	4
	日本・アジア総合研究（教育文化交流史）	4
	日本・アジア総合研究（東アジア文化論）	4
	日本・アジア総合研究（民俗学）	4
	アジア言語文献読解Ⅰ	2
	アジア言語文献読解Ⅱ	2
	欧米文学研究（英米文学）	4
	欧米文学研究（アイルランド文学）	4
	欧米思想研究（ドイツ思想）	4
	欧米思想研究（フランス思想）	4
	欧米総合研究（アメリカ歴史・政治研究）	4
	欧米歴史研究（ヨーロッパ史）	4
	欧米言語研究（生成文法理論・統語論研究）	4
	欧米言語文献読解Ⅰ	2
	欧米言語文献読解Ⅱ	2
	教育学研究（学校・学級経営実践論）	4
	教育学研究（教育環境論）	4
	教育学研究（教育哲学）	4
	教育学研究（教育史）	4
	生涯学習特論	2
	教育実践特論	2
	学校医療特論	2
	教育臨床心理学特論	2
	学校発達心理学特論	2
	教育心理アセスメント特論	2
	教育心理アセスメント実習	2
	学校カウンセリング特論	2
	学校カウンセリング実習	2

区分	授業科目	単位		
臨床心理学研究分野	必修科目	臨床心理学研究演習Ⅰ	4	
		臨床心理学研究演習Ⅱ	4	
		臨床心理学特論	4	
		臨床心理査定演習Ⅰ （心理的アセスメントに関する理論と実践）	2	
		臨床心理査定演習Ⅱ	2	
		臨床心理面接特論Ⅰ （心理支援に関する理論と実践）	2	
		臨床心理面接特論Ⅱ	2	
		臨床心理基礎実習	2	
		臨床心理実習	2	
	選択必修科目	A群	心理学研究法特論	2
			臨床心理学研究法特論	2
			心理統計法特論	2
		B群	教育心理学特論	2
			発達心理臨床学特論 （福祉分野に関する理論と支援の展開）	2
		C群	社会心理学特論	2
			臨床心理関連行政特論 犯罪心理学特論 （司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2
		D群	精神医学特論 （保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2
			障害児・者心理学特論	2
			高齢者臨床心理学特論	2
		E群	心理療法特論	2
			キャリアカウンセリング特論 （産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2
			学生相談特論	2
			力動的心理療法特論	2
			投映法特論	2
			認知行動療法特論	2
		選択科目	異文化間カウンセリング特論	2
			教育分野に関する理論と支援の展開 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	2
心の健康教育に関する理論と実践	2			
心理実践実習Ⅰ	3			
心理実践実習Ⅱ	7			

国際文化専攻 博士後期課程

区分	授業科目	単位
国際文化研究分野	国際文化特別研究Ⅰ	4
	国際文化特別研究Ⅱ	4
	国際文化特別研究Ⅲ	4
	国際文化特別演習	4
臨床心理学研究分野	臨床心理学特別研究Ⅰ	4
	臨床心理学特別研究Ⅱ	4
	臨床心理学特別研究Ⅲ	4
	臨床心理学特別演習	4

2 履修方法等

(1) 博士前期課程

- ① 学生は、「研究演習」を担当する教員を研究指導教員とし、授業科目の選択、論文の作成及びその他研究全般について指導を受けるものとする。
- ② 学生は、2年以上在学し、以下の方法で所定の単位を修得するものとする。ただし、特に優れた業績をあげた者の在学期間は、1年以上在学すれば足りるものとする。

a. 国際文化研究分野、教育学研究分野

研究指導教員（以下「指導教員」という。）の演習科目8単位、講義科目4単位及び同一研究分野の講義科目12単位を含む講義科目16単位以上及び共通科目から2単位以上、合計30単位以上を修得するものとする。なお、臨床心理学研究分野の必修科目及び選択必修科目E群の授業科目は、履修できないものとする。

b. 臨床心理学研究分野

指導教員の演習科目8単位を含む必修科目24単位、選択必修科目（A群～E群）の各群からそれぞれ2単位以上、計10単位以上、さらに全研究分野の講義科目から4単位以上、合計38単位以上を修得するものとする。

ただし、公認心理師の受験資格を得るためには、次表に掲げる授業科目の単位を修得するものとする。

授 業 科 目	単 位
臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2
臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	2
発達心理臨床学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2
犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2
精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2
キャリアカウンセリング特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2
教育分野に関する理論と支援の展開	2
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	2
心の健康教育に関する理論と実践	2
心理実践実習Ⅰ	3
心理実践実習Ⅱ	7

- ③ 全研究科共通科目を10単位を限度として修了に必要な単位に加えることができる。
- ④ 指導教員が教育上有益と認めるときは、他研究科及び基礎となる学部の授業科目の履修を認めることができる。なお、修了に必要な単位として認定することができる単位は、4単位以内とし、前③の全研究科共通科目と合わせて10単位以内とする。

(2) 博士後期課程

- ① 学生は、3年以上在学し、指導教員の担当する授業科目12単位を修得するものとする。
- ② 学生は、指導教員と相談の上、研究遂行に必要な知識の習得のため、4単位の特別演習を履修することができる。
- ③ 博士の学位論文は、「特別研究」を担当する指導教員に提出するものとする。
- ④ 博士後期課程において所定の修業年限在学して、所定の単位を修得後、学位論文を提出するために引き続き在学する学生は、指導教員に、各学期14回の学位論文指導を受けなければならない。

V. 情報科学研究科

1 授業科目及び単位数

情報科学専攻 博士前期課程

区分	授業科目	単位
全研究科 共通科目	英語プレゼンテーション特論	2
	基盤能力特論	2
	プロジェクト実践演習A	2
	プロジェクト実践演習B	2
	プロジェクト実践演習C	4
	生徒指導・進路指導特論	2
	学校心理学特論	2

情報科学専攻 博士後期課程

授業科目	単位
情報科学特別研究Ⅰ	4
情報科学特別研究Ⅱ	4
情報科学特別研究Ⅲ	4

区分	教育研究分野	授業科目	単位
専 門 科 目	情報処理機構分野	情報回路特論	2
		並列プログラミング言語特論	2
		ネットワークコンピューティング特論	2
		生命情報学特論	2
		VLSI設計特論	2
		アルゴリズムと計算量特論	2
		分散システム特論	2
		ソフトウェア工学特論	2
	社会情報システム分野	データベースと情報管理特論	2
		情報ネットワーク特論	2
		衛星通信工学特論	2
		計画システム特論	2
		情報セキュリティ特論	2
知能情報分野	情報数理特論	2	
	グループウェア特論	2	
	ヒューマンインタフェース特論	2	
	人安全管理特論	2	
共通	産業実務実習	2	
	情報科学セミナー	2	
	情報科学特別演習Ⅰ	4	
セミナー・演習科目	情報科学特別演習Ⅱ	4	

2 履修方法等

(1) 博士前期課程

- ① 学生は、一つの教育研究分野に所属し、特別演習担当の研究指導教員（以下「指導教員」という。）からセミナー、特別演習、学位論文の作成、その他研究全般について指導を受けるものとする。
- ② 学生は、所定の授業科目について、セミナー・演習科目10単位、専門科目20単位以上、合計30単位以上を修得するものとする。
- ③ 全研究科共通科目を10単位を限度として修了に必要な専門科目の修得単位に加えることができる。
- ④ 研究科が教育上有益と認めるときは、他の大学院及び学部の授業科目の履修を認めることができる。なお、修了に必要な専門科目として認定することができる単位は、前③の全研究科共通科目と合わせて10単位以内とする。
- ⑤ 指導教員が教育上有益と認めるときは、大学院協議会の議を経て学生が他の大学院又は研究所等において特別演習に関する必要な研究指導を受けることを認めることがある。
- ⑥ 学位論文は、所属する教育研究分野の特別演習について指導教員に提出するものとする。
- ⑦ 英文の総合報告を学位論文に代えることができる。

(2) 博士後期課程

- ① 学生は、特別研究担当の研究指導教員（以下「指導教員」という。）から特別研究、学位論文の作成、その他研究全般について指導を受けるものとする。
- ② 学生は、指導教員が担当する特別研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを履修して、合計12単位を修得するものとする。
- ③ 指導教員が教育上有益と認めるときは、大学院協議会の議を経て学生が他の大学院又は研究所等において特別研究に関する必要な研究指導を受けることを認めることがある。
- ④ 学位論文は、特別研究を担当する指導教員に提出するものとする。
- ⑤ 博士後期課程において所定の修業年限在学して、所定の単位を修得後、学位論文を提出するために引き続き在学する学生は、指導教員に、各学期14回の学位論文指導を受けなければならない。

別表第2

(1) 入学検定料、再入学選考料及び科目等履修生選考料

イ 入学検定料

(単位：円)

種 別		金 額
推 薦 入 学 試 験	本学卒業生又は修了者	16,000
一 般 入 学 試 験	本学卒業生又は修了者	16,000
社 会 人 入 学 試 験	他大学卒業生又は修了者	32,000
編 入 学 試 験	本学大学院修了者、退学者又は除籍者	16,000
	他大学大学院修了者又は退学者	32,000
外 国 人 留 学 生 入 学 試 験		16,000

ロ 再入学選考料

(単位：円)

種 別	金 額
再 入 学 選 考 料	16,000

ハ 科目等履修生選考料

(単位：円)

種 別	金 額	
科 目 等 履 修 生 選 考 料	本学卒業生及び修了者	6,000
	本学以外の卒業生	12,000

(2) 入学金

(単位：円)

大 学 院	本学の卒業生又は修了者	他大学の卒業生又は修了者
経 済 ・ ビ ジ ネ ス 研 究 科	免 除	70,000
工 学 研 究 科	免 除	110,000
芸 術 研 究 科	免 除	130,000
国 際 文 化 研 究 科	免 除	70,000
情 報 科 学 研 究 科	免 除	110,000

(3) 修学費

(単位：円)

種 別		大 学 院					
		経 済 ・ ビ ジ ネ ス 研 究 科	工 学 研 究 科	芸 術 研 究 科	国 際 文 化 研 究 科	情 報 科 学 研 究 科	
修 学 費	授 業 料	470,000	670,000	700,000	470,000	670,000	
	教 育 充 実 費	120,000	250,000	340,000	120,000	300,000	
	合 計 (年 額)	590,000	920,000	1,040,000	590,000	970,000	
	分 納	第 1 回	295,000	460,000	520,000	295,000	485,000
		第 2 回	295,000	460,000	520,000	295,000	485,000
納 付 期 限	分 納	第 1 回	所 定 の 期 日				
		第 2 回					

(注) 博士後期課程において所定の修業年限在学して、所定の単位を修得後、学位論文を提出するために引き続き在学する者の修学費のうち授業料は、経済・ビジネス研究科及び国際文化研究科157,000円、工学研究科及び情報科学研究科224,000円、芸術研究科233,000円とし、教育充実費は免除する。また、修学費は分納できないものとし、納付期限は所定の期日とする。